奈良市民だより
No. 380

奈良市民憲章

奈良は日本のふるさと、美しい自然とすぐれた文化遺産を守り、古都に住むものにふさわしい自覚と誇りに生きましょう。

奈良は未来をひらくまち。青少年は健康で、はつらつと、正しく強い人間になりましょう。

奈良は善意のまち。みんなのしあわせのために、おたがいに助けあいましょう。

奈良は清潔で平和なまち。旅行者にはあたたかく親切に接しましょう。

奈良はのびゆくまち。市民の創意で、伝統と調和のとれた新しい住みよいまちづくりをしましょう。

市民のうごき
11月1日現在（前月比増）
人口 273,113人（ 743）
男 132,538 （320）
女 140,575 （423）
世帯数 86,040（ 117）

金婚夫婦に祝酒をついでまわる鍵田市長夫妻

風雪を超えて半世紀

市民の祈りのもと金婚を祝う

文化の日　老夫婦二五一人を招いて

結婚して五十年。ことしめでたく金婚式を迎えた夫婦をお祝いする金婚祝賀会が「文化の日」の十一月三日午後一時三十分から市役所正庁で開かれました。

招かれたのは昭和二年に結婚した夫婦で、この日の出席者は百二十四組と単身出席者三人の計二百五十一人。

会場正面には鍵田市長夫妻はじめ市三役夫妻、加藤市議会議長、名誉市民の岡潔氏らが列席しました。

金春流の祝儀能「小鍛冶」で開幕。つづいて鍵田市長は文子夫人とともに会場を一巡、一組一組に「長寿をお祝いします」「おめでとう」と声をかけながら次々に祝酒をつぎ、つづいて慶田助役、麗子同夫人が夫婦ばし、紅白の祝いもち、色紙など記念品を手渡して回りました。

鍵田市長は「人生で何が一ばん尊いかというと、結婚してから夫婦がいろんな荒波に耐えて、しかも仲良く五十年をこえたということです。これくらい尊いものはありません。みなさん方は日本伝統の人の道を踏んでこられたのであって市民の模範であります。なおいっそう健康に気をつけられて夫婦相和し、長生きされてわれわれ後輩にご指導を賜わり、福祉のりっぱなまちづくりと、奈良市の発展を相たずさえてすすめてまいりたい」とお祝いを述べました。つづいて岡潔名誉市民、加藤市議会議長もお祝いを述べました。

このあと、中央に引きだされた大きなデコレーションケーキに、参加夫婦のうち合計年齢が最も高い須川町中尾善量（80歳）同オスエ（74歳）夫妻が割れるような拍手のうちにナイフを入れました。

あと茶話会に入り、一条高校琴クラブの箏曲「かがり火」などを鑑賞、松本義起市万年青年クラブ連合会長の発声で万歳を三唱、思い出深いひとときの幕をとじました。

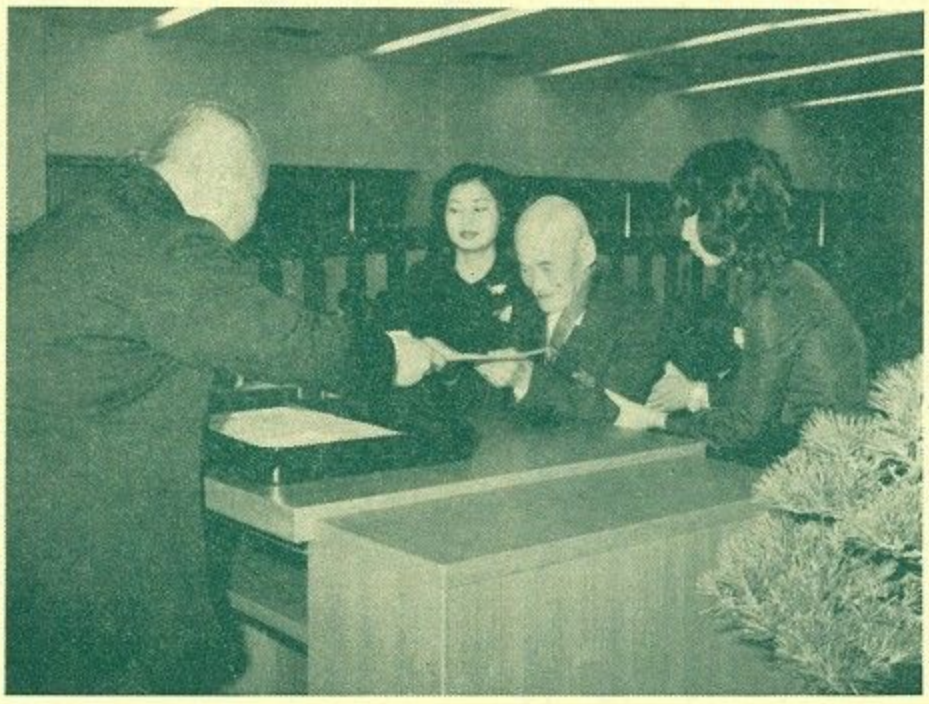
出席したある夫婦は『私たちは昭和の初めから五十年、思いかえせばいろんなことがありました。満州事変をはじめとして、支那事変（日華事変）から第二次世界大戦に至るまで、人生の半分近くを戦争で過ごし、なおかつ敗戦という今の若い人たちにはわかってもらえない苦労を経験、なんぎな時代を生きのびてきました。

幾多の苦難を乗りこえて、こうして夫婦そろって金婚式を迎えることができましたことは、まことに尊いことであり、われわれ夫婦にとりまして感激にたえないよろこびです」と涙を浮かべて語っていました。

祝賀会は木山助役のあいさつで閉幕。このあと玄関前で記念写真をとり、お互いに長寿を祈り合っていました。

昭和52年度奈良市表彰式

菊花にかおる65氏をたたえる



鍵田市長から有功者表彰を受ける県一男子長寿者西林金作さん

奈良市の発展に尽くされた方々の功績をたたえる奈良市表彰式は、「文化の日」の十一月三日午前九時三十分から市役所正庁で行なわれました。式場は菊の香りにつつまれ、鍵田市長、加藤市議会議長ら市関係者はじめ、岡潔名誉市民のほか市民代表四百人が出席しました。

鍵田市長は「新市庁舎が市制施行八十年の記念すべきこの年に、これまた〝平城京の市役所〟とされる左京職の位置と目される地に完成し、奈良市がまさに文化の花咲く発展期を迎えた意義深いこのとき、奈良市のために勇気ある実践をされ、また自彊（じきょう）してやまず、自らを社会の規範として、奈良市民として、りっぱな生き方を身をもって示されている皆さん方を、奈良市政の大きな〝いのち〟の灯台として表彰させていただくことは、まことに光栄であるとともに、この文化の日の表彰のもつ深い意義を考え、身のひきしまるおもいであります」と式辞を述べました。

つづいて表彰にうつり、琴の音が静かに流れるなか、鍵田市長が一人ひとりに表彰状を読み上げ、記念品を贈り、その功績を広く顕彰しました。

なかでも有功者表彰の西林金作さんは百二歳。市内はもとより県下でも男性の最高齢者。鍵田市長が表彰状を渡しながら参列者に「西林さんは百二歳です。今でも毎朝四時半に起きて仏壇に水を供えておられます」と紹介すると、ひときわ高く拍手がわきおこりました。

今回表彰の栄誉に輝いた被表彰者は、市政の発展に尽くした有功者十二人、教育・学芸・文化・産業の発展や地域社会、住民福祉に尽くした功労者四十五人、私心を捨てて陰徳を積み、また尊い人命を救助するなど、市民の模範となっている善行者八人の計六十五人。

表彰のあと加藤市議会議長は「表彰を受けられた方々はいずれも世のため、人のために私心を捨てて陰の徳を積み重ねられた市民の模範と言うべき方々であり、そのご事績はまことに崇高であり、市民のかがみであります。心からお祝いを申し上げ、長年のご功績に対し深く敬意を表します」とお祝いを述べました。

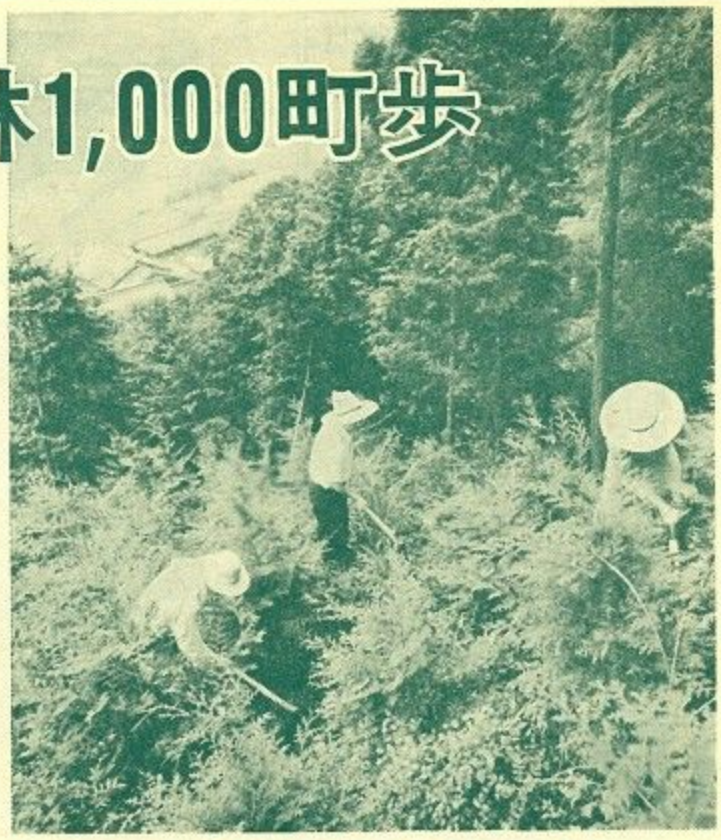
このあと木葉会ママさんコーラスの人たち二十五人が、受賞者をたたえる歌「頌讃」（しょうさん）と「奈良のうた」を合唱して、これまたその功績をたたえました。

発行＝奈良市役所広報公聴課（奈良市北新町61の1）電話（34）1111番　〒630　毎月1日・15日発行　全戸配布　　印刷＝共同精版印刷株式会社

植林1,000町歩

着々進む十ヵ年計画

三年目二七〇ヘクタール植樹



植えた苗木はすくすく育つ

昭和四十九年度にスタートした植樹百万本十ヵ年計画と並行して、昭和五十年度からはじめられた植林一千町歩十ヵ年計画は、ことし三年目を迎え、事業は順調にすすんでいます。

この計画は、昭和五十年から十年間で、市内の山林一千町歩（千㌶）に植林し、平地部の植樹百万本計画に合わせて、奈良のまち全体を緑で埋めつくそうというものです。そのため、一㌶あたり十万円の補助金を出して、森林所有者に毎年百㌶ずつ植林をしてもらい、十年間で千㌶の山に緑樹を植えようというのがこの計画の骨子となっています。

現在、市内の山林面積は国有林などを含めて約九、五二四㌶ありますが、その大部分は東部地域にあり、西部地域の山林は宅地開発などによって減少していく傾向なので、この計画の対象は主として市東部地域の山林となっています。

植林面積は、計画がスタートした昭和五十年度は七六・五㌶にとどまりましたが、翌五十一年度は一〇〇・二㌶と目標を突破。今年度も十月末現在で約九〇㌶の植林が完了し、三ヵ年合計で二六九・二㌶となり、目標の約九〇％を達成しつつあります。

植林された緑樹の種類はヒノキが約百万本で、全体の八三％を占め、スギが三十万本（一六・八五％）マツが二万本（一・五％）で計百二十三万本が植えつけられたことになります。

また、植林地の内容は、雑木林などを伐採した後の新規植林地が全体の七五％、植林樹木を伐採した後の再造林地が二五％となっています。

森林は緑のダムといわれるように、雨をすばやく吸い込み、水を貯え、ろ過して徐々に河川へ流す働きをしています。水道の水源のかなりの部分を市東部地域を流れる白砂・布目の両川に求めている奈良市にとっては、この植林によって生じる水源かん養機能は、将来にわたる水源確保のために欠くことのできない重要なものであるといえます。

また、森林は人間の生存に不可欠な酸素を供給し、自然環境を浄化してくれるほか、木材その他の林産物を供給する生産のはたらきもしてくれるなど、そのはたす役割は数多くあります。

奈良市では、植林一千町歩事業を植樹百万本計画と共に市の将来にかかわる施策として、最重点施策にとり上げその完遂のために全力をそそいでいるところです。

県同和教育推進協議会研究大会の全体会議

使う火を消すまで離すな目と心

防火意識の向上へ

26日から　秋の火災予防運動

今年は暖い秋日が続いたが十一月も半ばを過ぎると、西高東低の気圧配置とともに北西の季節風が吹く日が多くなってきます。一家だんらんの中心となるホームごたつをはじめ電気、ガスあるいは炭火を使った各種の暖房器具がどこの家庭でも顔を出してきます。

ところが、この暖房器具がちょっとした不注意で火事の火元となります。とくに冬先はこれら暖房器具の取り扱いに不慣れなため、一人ひとりが十分に気をつけなくてはなりません。

この時期をねらって、今年も十一月二十六日から十二月二日まで全国的に秋の火災予防運動が展開されます。奈良市消防本部でも「使う火を消すまで離すな目と心」の全国統一標語のもとに、日本一火災の少ないまちの誇りをかけて、市民の防火意識の向上と火災の未然防止、人命損傷事故の絶滅へ次のような積極的な運動を展開することにしています。

【重点目標】

◇幼児・老人の焼死防止の徹底＝最近は専用・共同住宅などの火災が多く、建物火災の過半数を占めている。と同時に、これら建物の中に住んでいる老幼者・障害者など自力避難の難しい人の焼死が目立っている。これらの人の焼死防止対策の徹底をはかる。

◇生きた自主防火体制の促進＝最近の旅館・デパート・病院はじめ複合用途建築物など多数の人が集まる建物の防火管理が徹底していない。これら関係者に万一の場合の社会的責任を自覚させ、防火管理体制づくりを促す。

【いっせい実施事項】

◇家庭＝幼児・老人だけを残して外出しない▽幼児・老人の安全避難を常に考えておく▽外出・就寝前の火元点検▽寝たばこは絶対にしない・させない▽自分が使った火は自分が消す。

◇職場＝消火・通報・避難訓練の実施▽消防用設備の総点検▽非常口や通路は塞がない▽職場教育による防火意識の高揚▽雑居ビルでは入居者が防火の共同責任を負う。

消防本部ではこのほか市消防団と協力して公民館活動などを通じて火の用心を呼びかけたり、婦人消防クラブ員の研修会、防火座談会、家庭防火指導、雑居ビルなどの特別査察を行なう予定です。

同対事業特別措置法延長強化も決議

県同和教育推進協議会研究大会

第十回奈良県同和教育推進協議会研究大会（県同和教育推進協議会主催、市・市同和教育推進協議会後援）が、十一月六日午前九時から市内法華寺東町市立一条高等学校で開かれました。県下各市町村にわたる社会同和教育の推進と発展を顧って開かれたもので千四百人が参加しました。

今大会の開催地を引き受けた奈良市では、奈良市社会同和教育推進協議会が中心となって、各機関、団体の協力のもと、一ヵ年にわたって受け入れ体制を整えてきました。はじめの全体会で教育、運動行政の各代表者から決意表明が行なわれ、ついで奈良市長代理の慶田助役が行政代表として同和問題解決のための力強い決意を述べました。

このあと分科会にうつり、各会場に移動。子ども会・婦人、青年、公民館、隣保館、行政、PTA、仕事・労働の七分科会（十六分散会）に分かれ、日ごろの実践を報告し合い、今後の取り組み方について熱心に研究討議が行なわれました。

とくに奈良市からは十人が各分散会場で有益な発表を行なったことは特筆すべきことでした。

午後も引き続き分科会が開かれたあと、終りの全体会にうつりましたが、全員最後まで真剣に参加、熱心な討議がくりひろげられました。

また今大会では初めて臨時託児所が、市婦人ボランティアの人たちの奉仕で設けられ、幼児づれの婦人参加者によろこばれていました。

終りに同和対策事業特別措置法の強化延長を求める件が議決され、ついで奈良市PTA副会長有本佳子さんから大会宣言の朗読発表が行なわれ、満場拍手のうちに意義ある大会の幕を閉じました。

新自治会長

順不同　敬称略

【新自治会長】西護麻堂町＝武野芳次▽横井町二丁目＝吉田年光

ゴミ　再利用できるものは集団回収で

市が、ゴミの合理的処理をめざして去る十月から始めた分別収集は、すでに一か月半を経過しました。幸い市民みなさんのご理解とご協力で、この新しい方法は比較的順調に進んでいます。

この中で、なお分別不十分と思われるものが二、三目につくようです。一ぱんにいえることはゴミの再資源化への配慮がまだ十分行なわれていないということです。分別して出されたゴミの中に新聞とか、雑誌、布、ビン類など資源ゴミとして再利用できるもの、また下取りをしてもらえるものが以前と同様に多量に混って出されております。これら有用のゴミは、自治会や婦人会などの集団回収方式によって業者へ売却してほしいものです。この場合、廃品回収業者のあっせんを希望される方は清掃課（電話㉑三〇〇一番）へご連絡ください。

また「有害ゴミ」は、配布している赤い袋に必ず入れて大型ゴミと同じ日の同じ場所に区分けして出して下さい。すべてのゴミは決められた日に決められた場所へ出してください。

一八一戸が下水処理区域へ

市の下水道事業が進み、十一月二日からつぎの地域であわせて百八十一戸が浄化槽のいらない水洗便所が使えるようになりました。これまでの分をあわせて一万九千三百三十六戸が下水道の便益を受けることになります。

三条町▽大宮町▽川上町▽東之阪町の各一部

無料法律相談所

立命館大学学生法律相談所

立命館大学の学生法律相談部が奈良市・市社会福祉協議会の後援で、今年もつぎのとおり無料法律相談所を開きます。昨年は相続、借地借家などに関する多くの相談がありました。

同大学法学部中井美雄教授をはじめ同大学出身弁護士、法学部学生が刑事事件と税務相談を除くあらゆる法律相談に応じます。お気軽にお越しください。

【とき】11月27日（日）午前10時～午後3時

【ところ】中央公民館（旧市役所＝東寺林町38）

27日・中央公民館で

留守中の火事が心配になります

出かけるときは火の元をたしかめ、隣りへ声をかけましょう。

市役所へのご用件は

電話㉔一二一一番へ

市役所へのご用件は電話サービスセンター（電話代表㉔一二一一番）へ。電話一本で戸籍の謄抄本、付票や住民票の写しなどが、早急に請求できます。また市に対するいろいろな要望、苦情、問い合わせなども電話で気軽に用が足せます。また夜間や休日でのご用件は、留守番電話をどしどし利用してください。

電話サービスセンター

"女の友好"深める
中国婦人代表団奈良へ

鍵田市長と歓談する中国婦人代表団

日中友好協会（正統）の招きで来日している楊純中華人民共和国衛生部責任者（日本の厚生大臣または次官にあたる）を団長とする中国婦人代表団の一行十二人が十一月十日奈良市役所を訪れ、鍵田市長を表敬訪問しました。「西安の間」に案内された一行は鍵田市長、加藤市議会議長はじめ市幹部職員、婦人団体代表者らとなごやかに歓談。

鍵田市長は「この部屋はみなさん方の部屋です。ゆっくりくつろいでください。奈良市は西安市と友好都市提携を結んでいる。中国と長い友好の歴史を持つ奈良で、里帰りしていただいたという気持で奈良市の婦人代表と親しく友好交流をしてください」と歓迎しました。

これに対し楊団長は「奈良は古い都で中国と昔から友好的な文化の交流のあったまちときいています。その奈良を訪問できてうれしく思います。二千年にわたる中日友好往来の歴史は今もなお生きています。今日の訪問がこの友好をさらに深くすることと信じます」とあいさつ。

このあと唐招提寺、大仏殿、安堵村の住江織物工場を参観。住江織物工場では工場排水などの公害防止策について楊団長は衛生部の責任者らしく鋭い質問をしていました。

午後三時半から開かれた婦人代表者との懇談会では、県下の婦人十五団体の代表者に大阪、和歌山からかけつけた婦人を加えた約八十人が参加。奈良側を代表して杉本玉子市地域婦人団体連絡協議会長が「近代化をめざし、男性に劣らずいろいろな分野で活躍しておられる中国の婦人のみなさんを迎え、大いに学びたいと思います」と歓迎。交歓会では県や市の、あるいは婦人の現況説明に中国の代表団はうなずきながら熱心にメモをとっていました。また両国の歌の交流や詩の朗詠などがあり、なごやかな雰囲気の懇談会でした。

翌十一日は午後から市中央体育館での市地婦連との交流会のあと法華寺を参観、三重県鳥羽市へ出発しました。

人権擁護委員に 新に松田一雄氏

奈良市の人権擁護委員に市内東之阪町松田一雄氏が十一月一日づけで法務大臣から委嘱されました。

市役所市民相談室で開いている人権相談には毎月第一金曜日（午前九時～午後四時）の担当になります。

上海市のバスケットボールチームも

中国上海市のバスケットボールチーム（朱勇団長）の一行男女三十四人が十一月十日奈良市役所を訪れ、鍵田市長を表敬訪問しました。

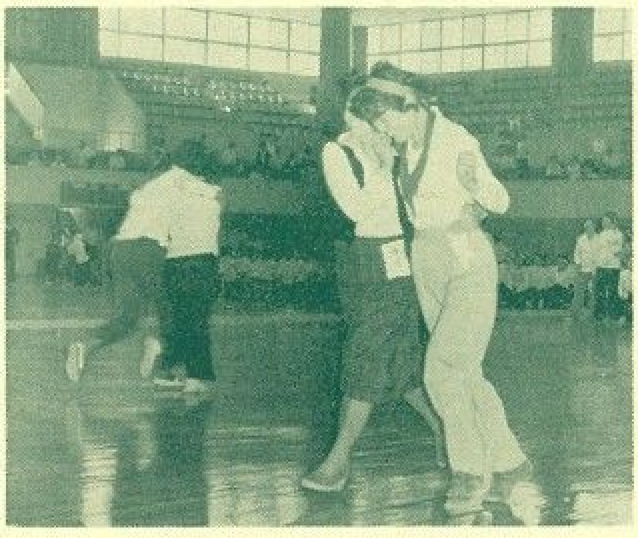
一行は上海市との友好都市である大阪市の招きで来日、親善試合の合い間をぬっての来寧で、鑑真和上ゆかりの唐招提寺を参観し、奈良公園でシカ寄せを楽しんだあと午前十一時市職員、市民ら多数出迎えるなか市役所に到着。

「西安の間」で鍵田市長はじめ加藤市議会議長、市幹部職員らと歓談しました。

このあと市長主催の野外昼食会が県公会堂の庭で開かれ、ブタ汁や関東だき、オハギなど心づくしの日本料理に舌つづみを打っていました。

午後は東大寺を参観したり、若草山からの展望など、古都の晩秋を満喫しました。

友情と体力づくり
市地婦連体育大会


「オット、キッスはごめん」のゲームを楽しむご婦人方

市教育委員会と市地域婦人団体連絡協議会（地婦連）の共催で、第六回「市地婦連体育大会」が十一月十一日市中央体育館で開かれました。

この運動会は婦人の体力づくりと婦人会会員の親ぼくをはかるもので六百人が参加しました。杉本玉子市地婦連会長のあいさつのあと鍵田市長は「中国の人たちのように心を飾らないところに友情が生まれる。今日は教養と体力づくりに加えて友情に結ばれてしっかりやって下さい」と励ましました。このあと虎杖房子さんの選手宣誓があって競技開始。紅白にわかれ、十二種目の競技に家庭のことも忘れ、童心にかえって楽しみました。

平城宮跡菊花大会入賞者

市役所玄関前で十一月二十三日まで開かれている第七回「平城宮跡菊花大会」の審査が八日に行なわれ、見事に咲いた約六百鉢の中から市関係ではつぎの人たちが入賞しました。（敬称略）

【総合花壇】中川安次▽増田兼夫
【大菊三本立花壇】中田勝康▽奥田則子▽荒井正一▽中村武男▽西田芳一▽岡本潤一▽池沢幸▽村田友次郎
【特殊総合花壇】広瀬正三▽岡崎正己▽西口重一▽南沢弘
【福助花壇】木村政雄▽中田勝康▽西田義子▽竹田武雄▽中川安次▽奥田則子▽椎木鹿之助▽佐々木定人▽中村武男▽北野作男
【一般市民】片山清子▽松本宇之一▽藤田改造▽松本弘▽奥田留次郎▽松本和子▽永井清▽中島秀男▽中島敏子▽印道日出子▽山本武史▽室屋良▽荒木きみえ▽山本義成

婦人バレーに7チーム
同和対策推進協議会

市同和対策推進協議会（荒木武男会長）主催の婦人バレーボール大会が、十月三十日市中央体育館で開かれました。参加したのは七チーム八十人の選手と応援のご主人や子どもたち三百人。

この大会は同協議会が、同和地区の婦人の健康増進と親和をはかるため、昭和四十七年から実施しているものです。

大会は荒木会長のあいさつではじまり、慶田市助役の激励のことばのあと、前回優勝の古市町チームの藤本ミドリさんが力強く選手宣誓。応援の人たちの盛んな声援を受け熱戦をくりひろげた結果、横井町チームが優勝、準優勝は東之阪町チームでした。

早朝の記念式
創立十四周年に
清美公社

株式会社清美公社（吉川浩社長、従業員八十三人）の創立十四周年記念式が十一月一日午前六時三十分から行なわれました。式には鍵田市長、慶田・木山両助役、紺家収入役のほか吉川社長以下全従業員が出席。同社中庭に祭壇を設け、神事のあと玉串を奉って市民奉仕への精進を誓い、無事故を祈りました。

このあと鍵田市長から永年勤続の優良従業員二人に表彰状が、また永年勤続者と積徳運転者に吉川社長から表彰状がそれぞれ贈られました。

鍵田市長、吉川社長があいさつをして式を終わり、市長らの拍手に送られて全員元気にバキュームカーで早朝の市内へ出動しました。

28チームが熱戦を展開
市婦人バレーボール

市教育委員会と市婦人バレーボール協会共催の第十回奈良市婦人バレーボール大会が十一月六日午前十時から市中央体育館で開かれました。

この日参加したのは市内各地域の二十八チーム、四百五十人で、試合は三ブロックに分かれ、各ゾーンごとにトーナメント方式で熱戦をくりひろげました。

日曜で家族づれの声援もあって、ママさんたちは大いに張り切り、手に汗握る好ゲームを展開。会場につめかけた観客をわかせました。成績は次のとおりです。

Aゾーン＝①六条チーム②あやめ池チーム▽Bゾーン＝①佐保チーム②東市チーム▽Cゾーン＝①右京チーム②帯解チーム

母のつづる教育作文入賞者

市教育委員会が「教育週間」（十一月一日～七日）にちなんで、市内のお母さんから募集した「母のつづる教育作文」の入賞者につぎの十人が選ばれ、十一月四日市役所会議室で表彰式が行なわれました。（敬称略）

京谷由紀子（般若寺町）「兎に勝つ亀のようにゆっくりと」▽上山日出子（水間町）「おかあちゃんはばつや」▽佐保川澄子（興福院町）「弓道と喘息」▽森本美智子（水間町）「娘と私の心のページ」▽久保田洋子（法蓮佐保町）「クラブ」▽谷脇みどり（長谷町）「子供の成長に寄せて」▽小倉路子（東九条町）「娘と共に歩む道」▽坂田忍（神功一丁目）「見つめ合える親子でいたい」▽福田康子（三条通一丁目）「ティータイム」▽赤星幸（右京二丁目）「お母さんも負けへんで」

市民相談

市政相談
本庁相談室＝平日午前9時～午後4時。土曜日は正午まで。
西部公民館＝毎週火曜日午後1時～4時。（電話㊾3978番）

法律相談
本庁相談室＝毎週月曜日午後1時～3時半は弁護士の直接相談。平日は午前9時～午後4時に「相談カード」を渡します。
12月中の担当弁護士（敬称略）
5日 吉田恒俊 12日 城 徹
19日 本間末吉 26日 田川 和幸

行政相談
本庁相談室＝毎週水曜日午前9時～午後4時。
12月中の担当相談員（敬称略）
7日 桜井利雄 14日 岩野 政一
21日 近東弘七

人権相談
本庁相談室＝毎週金曜日午前9時～午後4時。
12月中の担当相談員（敬称略）
2日 東雲 茂男・荒木 武男・松田 一雄
9日 植松宗平・五嶋光恵・細田 宏
16日 米浪勝之助・赤堀 綾子・高石武一郎
23日 狭川明俊・石原フジ

年金相談
年金課＝毎月第1月曜日午前10時～午後3時。厚生・国民各年金の相談。

心配ごと相談
本庁相談室＝毎週金曜日以外の平日午前9時～午後4時。土曜日は正午まで。

消費生活相談
本庁相談室・西部公民館＝毎週火・木曜日午前10時～午後4時。

家庭児童・母子相談
本庁相談室＝毎週金曜日午前9時～午後4時。
福祉第二課＝平日午前9時～午後5時。土曜日は正午まで。

戦没者遺族相談
福祉第一課＝毎月第1金曜日午前9時～午後4時。遺族年金などあらゆる相談。

電話サービスセンター
電話 ㉞ 1211 (代)
。問い合わせ・相談・要望・苦情
。戸籍謄抄本・付票の写し、住民票の写しの交付予約など。
電話でどうぞ。

小浜市 観光と物産展
25～27日 西部公民館で

奈良市と姉妹都市である小浜市の「物産と観光展」がきたる十一月二十五日から二十七日まで開かれます。毎回市民、とくに主婦に好評を得てなじまれてきたこの催しも今回で八回目。

会場は今回は西部地域に移し西部公民館（学園北二丁目）で開き、時間は二十五・二十六両日は午前十時～午後七時、二十七日は午前十時～午後四時です。

若狭特産の小ダイのささづけ、カレイ、ワカメなどの海産物、若狭メノウ、若狭塗、若狭和紙などが小浜市から直送で展示即売され、両市の友好を深めます。

歴史講座
来月中央公民館で 申込み26日までに

奈良がかかえている多くの文化遺産を手がかりに郷土を理解してもらおうと市教育委員会では「歴史講座」を開講します。本年度は〝奈良の古代〟をテーマに市中央公民館（東寺林町）でつぎのように開きます。参加希望の方（市内在住、一般成人）は往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を書いて十一月二十六日（消印有効）までに市教育委員会社会教育課（北新町六一一、電話㉞一一一一番）へ申し込んでください。定員は百人（応募多数の時は抽選）。

▽十二月一日（木）午後一時「講話」鍵田忠三郎氏（奈良市長）

▽十二月七日（水）午後一時「古代の奈良」直木孝次郎氏（大阪市大教授）

▽十二月二十日（火）午前九時半「平城京について」岸俊男氏（京都大学教授）

▽来年一月十三日（金）午後一時「平城京の寺々」堀池春峰氏（奈良大学教授）

年賀状は――おはやく

年末は年賀郵便をはじめ雑多の郵便物が殺到して混雑します。郵便局では年末、年始の郵便物をつぎのように扱いますから、できるだけ早く出すよう心がけてください。

◇年賀状＝特別取扱い期間は十二月十五日～二十八日ですが、なるべく二十日までに出してください▽枚数が多いときは「市内」「県内」「他府県」の三つに分け、別に束ねて出してください▽小さい子どもあてのものは、あて先に世帯主名を添えてはっきりと書いてください。

◇大型郵便物と小包＝十二月十五日までに出してください。

◇小包郵便物（速達・外国向けは除く）＝臨時取扱い場所（大森町交差点東五十㍍）で十二月一日から来年一月五日まで取扱います。

青少年児童会館
（市内西木辻八軒町、電話㉓七〇三七番）

設立十周年記念のつどい

来月十・十一両日つぎのように催します。参加希望者は水曜日を除く日の午後に同会館へ電話で申し込んでください。十一月二十一日から受付け、定員になり次第締切ります。

【青年の部】とき＝十二月十日（土）午後六時～同九時▽定員＝百五十人▽参加料＝三百円、プレゼント交換用の品物（二百円程度）を持参のこと▽内容＝展示（会館十年の歩み）、ダンス、茶席、手作りコーナー、音楽コーナー、キャンドルのつどい、その他。

【小学生の部】とき＝十二月十一日（日）午前九時～同十一時半▽定員＝低学年六十人、高学年百人、なお高学年ののど自慢うで自慢大会出場希望者は申込み時に受付けます▽参加料＝無料▽内容＝のど自慢うで自慢大会、子どもの世界、人形劇・紙芝居。

【中学生の部】とき＝十二月十一日（日）午後一時～同四時半▽定員＝卓球大会五十人、ミュージックサロン五十人、計百人▽参加料＝無料。

新成人から作文を募集

自治省と明るい選挙推進協会が、成人を迎えようとする新有権者から、地方自治や国政への参加について考えたり感じたり、また体験したことの感想文をつぎのように募集しています。応募作文は十二月二十五日（当日消印有効）までに市選挙管理委員会（北新町、電話㉞一一一一番）へ届けてください。

応募資格＝昭和三十二年一月一日～同三十三年十二月三十一日生まれの人▽字数＝千六百字以内▽標題＝内容にふさわしいもの▽選考方法＝県内の優秀作品二編を中央審査に付し、来年二月十五日に発表▽賞＝最優秀（一編、自治大臣表彰と副賞五万円）入賞（五編、自治大臣表彰と副賞三万円）佳作（若干、同協会長表彰と副賞一万円）▽応募上の注意＝①住所、氏名（ふりがな）、性別、生年月日、職業を原稿の末尾に明記する②応募作品は未発表のもので、応募原稿は返却しない③入選作品は同協会が自由に使用する④この感想文募集を知った媒体名（新聞、ラジオ、広報紙、その他）を付記すること。

南部公民館
（市内紫屋町二九一一、電話㉖五九三一番）

帯解さつきクラブ研究会員を募集　講習日毎月第四日曜日は午後一時～同四時。会費は年間二千円。入会希望者ははがきに住所・氏名・年齢・電話番号を書いて十一月三十日までに南部公民館内同研究会へ。

文化祭 大倭安宿苑

社会福祉法人大倭安宿苑（おおやまとあすかえん）では同苑の三施設合同の文化祭を催します。この文化祭では入寮者の手芸、編み物、書道など百数十点の作品展もあり、一部はバザーとして即売されます。

とき＝十一月二十日～二十七日の午前九時半～午後四時▽ところ＝大倭安宿苑講堂（大倭町、電話㊹九三四六番、近鉄学園前駅南口より赤膚山行バスで藤の木一丁目下車、徒歩三分）

市民歩こう会
申込みは30日まで

市教育委員会と市野外活動協会ではつぎのように「市民歩こう会」を開きます。参加希望者ははがきに住所、氏名、年齢、電話番号を書いて十一月三十日（必着）までに市保健体育課（北新町）へ。

とき＝十二月四日日午前九時、県庁西側集合。▽コース＝県庁前―般若寺―緑ケ丘浄水場―九体寺―（バス）―奈良。約八㌔。▽持ちもの＝水筒、弁当。雨天は中止。空模様のあやしい時は松井喜三氏宅（電話㊿二六七五番）へ。

五徳みそ
再受講者は受付けます

市民参加によるまちづくりの一環として行なわれている市の五徳みそづくり講習会は、今年度は三万五千世帯を目標に行なわれています。

この講習は市民の生活安定と正しい食生活の一助となることを願い、グループでも一人でも受講できます。

受講希望者は生活安定課、東部・西部・北部各出張所、連絡所、公民館にある申し込み用紙か官製はがきに住所、氏名、電話番号、グループの場合は人数を書いて申し込んでください。なお新規受講は締切りましたが、再受講はまだ余裕があります。受講料は材料費（みそ十㌔分）千五百円です。くわしいことは生活安定課（電話㉞一一一一番）へ。

奈良市スポーツ開放日

◎バドミントン＝十二月四日（日）午前九時～正午は高校生以下、午後一時～四時は勤労者とファミリー。

資格＝市民（学校、会社などのクラブ活動は認めません）。

その他＝運動ぐつは必ず持参（素足は認めません。）用具のある方は持参してください。

―市中央体育館―

所得税年末調整説明会

昭和五十二年分源泉所得税の年末調整の仕方や、法定調書などの提出についての「年末調整説明会」がつぎのとおり開かれます。各事業所の経理担当者はぜひ参加してください。

とき＝十一月二十九日（火）午前十時～正午は官公庁、支店法人、個人、その他。午後二時～四時は本店法人。▽ところ＝県文化会館大ホール。

くわしいことは奈良税務署（電話㉔一一五一番）へ問い合わせてください。

花木の品評会と即売会

市花木園芸組合の花木品評会と即売会がつぎのように開かれます。

とき＝品評会は十一月十九日午前十時～正午。即売会は同十九・二十両日午前九時～午後五時▽ところ＝登美ケ丘公民館（中登美ケ丘一丁目）▽即売種目＝花ウメ、モミジ、ツツジ、竹、はち物など。

花木展示即売会

市農協農業生産部会ではつぎのように花木展示即売会を開きます。

とき＝十一月二十五日～二十七日、午前九時～午後四時▽ところ＝市農協平城支所（秋篠町、電話㊺四六二一番）▽即売＝花木、盆栽、春咲球根、秋野菜、園芸用品など。

寮母さん募集
大倭安宿苑で

社会福祉法人大倭安宿苑（おおやまとあすかえん）では同苑の特別養護老人ホーム長曽根寮（電話㊹九三四六番）の、寝たきり老人の身のまわりの世話をする寮母を募集しています。年齢は十八歳～四十歳ぐらいの婦人で、健康であれば学歴は問いません。ただし宿直勤務の可能な人。くわしいことは同寮へ問い合わせてください。

障害青年の交歓会
20日、京都市青年迎えて

市肢体障害者福祉協会青年部（橋本弘子部長）では、広く友を得て友情をあたためあおうと、京都市の同協会青年部とつぎのように交歓会を開き、ゲームや寸劇を楽しみます。市内在住の肢体障害の青年で参加希望者は「みどりの家」（電話㉔五七五七番）へ電話で申し込んでください。

とき＝十一月二十日午前十時半、「みどりの家」集合▽会場＝「老春の家」大広間▽費用＝二千円（昼食代など）

クリスマスイブをユースホステルで
小学3年以上100人

市子ども会育成連絡協議会では市教育委員会の後援で、クリスマスイブをユースホステルですごすつどいを次のように行ないます。参加希望者は十一月二十日までに市社会教育課内市子ども会育成連絡協議会（北新町、電話㉞一一一一番）へはがきで申し込んでください。

とき＝十二月二十四日～二十五日▽場所＝奈良ユースホステル（市内平田開町）▽定員＝小学校三年以上百人▽参加費＝二千五百円（一泊二食、フィールドアスレチック入場料を含む）▽持ちもの＝洗面具、プレゼント（二百円程度のもの）▽内容＝二十四日は夕食パーティー・映画・うた・ゲーム・キャンドルサービス・プレゼント交換。二十五日はフォークダンス・フィールドアスレチック。

奈良保健所
（市内西木辻八軒町、電話㉓六一七一番）

育児教室　つぎの日程で開きます。参加できるのは二カ月以上三歳未満の乳幼児をもつ母親で、時間はいずれも午後一時～三時半です。受講希望者は住所、氏名、子どもの年齢（月齢）を添えて電話で申し込んでください。

12月7日「育児の疑問に答えて」
12月14日「乳幼児の精神発達」
12月21日「乳幼児の栄養」
12月23日「乳幼児の病気」

花の市
来月は四日に

毎月第二日曜日に開いている「花の市」は、十二月は予定を変更して第一日曜日の四日に開きます。場所は近鉄奈良駅前と西部公民館横広場、時間は午前八時と変わりません。

3歳児健診

三歳児は身体や精神の発達のうえで大切な時期です。この時期の発育状態を知るための健康診査をつぎのように行ないます。場所は奈良保健所（八軒町、電話㉓六一七一番）。対象は昭和四十九年四月二日～同年十月一日生まれの子。検尿、歯科検診、小児科医による診察、身長・体重・胸囲の測定、知能テストのほか育児相談などもあります。受けつけはいずれも午前九時～十一時と午後一時～三時の二回。母子手帳をお忘れなく。（他校区は順次掲載）

12月1日（木）大安寺・帯解両校区
12月8日（木）済美校区

善意ありがとう 善意銀行

四月五日　元興寺町西林キヨエさんから奈良警察署を通じて五千円。▽ダイエー直営店・専門店からチャリティー収益金十万四千円。▽帝塚山中学校三年六組卒業生のみなさんから肢体障害者福祉協議会へ六千百六十円。

同七日　千代ケ丘三丁目前田隆さんから鶴舞保育所へ中古テレビ、オルガン各一台。

同八日　七条西町藤田登良恵さんから亡夫供養のために二万円と背広など十三点。▽七条西町北山春子さんから奈良警察署を通じ一万円。▽鳥見町三丁目村川教章さんから千円。▽尼辻東町嶋田敏博さんから奈良警察署を通じ五百円。

同十一日　大柳生町塚本善秀さんから老春の家へ床置物三点。

同十二日　天理市石上町中村忠司さんから愛の定期便三千円。▽都跡局消印の愛の匿名定期便五千円。▽下御門町吉村芳江さんから五千円。▽七条西町仲井薫さんから奈良警察署を通じ千四百五十円。▽杉ケ中町大江京子さんから奈良警察署を通じ四千五百円。

同十三日　学園南一丁目杉岡せんさんから老人ホームへと二万円。

同十五日　南京終西町江島二郎・多賀子さんから亡母の粗供養にと五十万円。

同十八日　東紀寺町二丁目〝お父ちゃん〟からコンサート募金八千七百七十四円。

11月30日は 固定資産税・都市計画税（第三期分） 下水道事業受益者負担金（第二期分）の納期限です